

開講年度・学期	2017年度・後期	授業形態	演習
科目名	演習論文（法社会学）	科目ナンバー	JASEM3305
英語表記	Thesis Seminar on Sociology of Law	担当教員	阿部 昌樹
単位数	2		
科目の主題			
「司法の法社会学」に関連した社会科学的な学術論文の執筆			
授業の到達目標			
社会科学の学術論文の作成に必要な、以下のような能力を身に付けることを目標とする。			
①先行研究を精読したうえで、学術的な価値があり、かつ自ら考察を深めたいと思えるような研究テーマを設定する。			
②自ら設定したテーマに関連する先行研究をさらに精読し、未だ論じ尽くされていない論点や、さらに検討を深めるべきと思われる論点を抽出する。			
③抽出した論点について考察を進めるために必要なデータを収集し、分析する。			
④データ分析の結果を踏まえ、学術論文を作成する。			
⑤文献や資料を引用する際の、標準的な方式に従う。			
授業内容・授業計画			
第1回 ガイダンス①（学術論文とはどのようなものか／学術論文作成の手順）			
第2回 ガイダンス②（文献・資料の収集方法／引用方法について）			
第3回 研究テーマについての第一次報告とそれを踏まえた討論			
第4回 研究の進捗状況についての報告とそれを踏まえた討論①			
第5回 研究の進捗状況についての報告とそれを踏まえた討論②			
第6回 研究の進捗状況についての報告とそれを踏まえた討論③			
第7回 研究の進捗状況についての報告とそれを踏まえた討論④			
第8回 論文の構成案についての報告とそれを踏まえた討論①			
第9回 論文の構成案についての報告とそれを踏まえた討論②			
第10回 論文の構成案についての報告とそれを踏まえた討論③			
第11回 論文のドラフトについての報告とそれを踏まえた討論①			
第12回 論文のドラフトについての報告とそれを踏まえた討論②			
第13回 論文のドラフトについての報告とそれを踏まえた討論③			
第14回 論文のドラフトについての報告とそれを踏まえた討論④			
第15回 授業のまとめ			
事前・事後学習の内容			
必要な事前学習・事後学習は、どのようなテーマについてどのような内容の論文を執筆するかによって、大きく異なってくる。したがって、授業の進行にあわせて、参加する学生のそれぞれに個別に、必要な事前学習・事後学習を指示する。			
評価方法			
授業への参加状況と執筆した論文の内容に基づいて評価する。			

受講生へのコメント

法社会学は「学際的」な科目であり、社会学のみならず、政治学、経済学、心理学、人類学等の社会諸科学の理論や方法のすべてが、潜在的には利用可能である。したがって、どのような理論や方法を用いるのが、学術論文の執筆に際して、きわめて重要な選択になる。法学のオーソドックスな研究スタイルとは異なった研究スタイルに接してみたいと考える学生の参加を希望する。

教材

受講者すべてに共通の教材は指定しない。それぞれの学生が設定した論文のテーマや、選択した分析方法に応じて、目を通しておくべき文献や資料を適宜指示する。

その他**履修可能最低年次**

3年次生以上